

令和2年度 宇都宮市社会福祉審議会地域福祉専門分科会 会議録

- 日時 令和2年11月27日（金）午後4時00分～午後5時30分
- 場所 宇都宮市役所 7階 農業委員会室
- 議事 「第4次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の令和元年度の進捗状況及び令和2年度の取組について
- 出席者
 - 【委員】村田雅彦委員，麦倉仁巳委員，檜山和子委員，興野憲史委員，浜野修委員，大金勇夫委員，金枝右子委員，長谷川万由美委員，松本カネ子委員（9名）
 - 【事務局】[保健福祉総務課]神永課長，根岸課長補佐，磯係長，田邊総括，鈴木主任，生駒主任主事
 - ※ オブザーバーとして市社会福祉協議会総務企画課の長島課長，八木困難主任が出席
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 無
- 会議経過
 - 1 開会
 - 2 委員紹介
 - 3 分科会長選出
互選により長谷川委員を選出
 - 4 職務代理者指名
長谷川分科会長から浜野委員を指名
 - 5 議事
「第4次宇都宮市やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり推進計画」の令和元年度の進捗状況及び令和2年度の取組について事務局より説明し，事務局案のとおり了承
 - 6 その他
 - 7 閉会

《発言要旨》

発言者	内容
5 議事	
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様から意見はあるか。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 市内の路線バスにおいて、身体障がい者手帳及び療育手帳所持者については、バスの運賃割引制度が適用されるのに対し、精神障がい者保健福祉手帳所持者については対象外となる。路線バスの車内に、このことを知らせる張り紙が掲示されている写真を入手したので、各委員に写真とともにお知らせしたい。精神障がい者に対し、バスの運賃割引の適用がないのは、全国的に見て、栃木県だけのように見受けられる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がい者に対し、バスの運賃割引が適用されていない状況があることから、宇都宮市では、在宅精神障がい者が通院や通所のために公共交通機関を利用する場合、その料金の一部を助成しており、1か月あたり1,000円のバスカードを交付している。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> バスカードはまもなく廃止されるが、どうなるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> バスカードは廃止となるが、交通費助成の考え方は残るため、別の支援策が講じられると考える。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が郊外の場合、1,000円のバスカードでは、助成が充分とは言えない。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が納得すれば、運賃の割引が可能となるのではないか。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響でバス事業者の経営が苦しいことは理解できる。バス車内において、精神障がい者の運賃割引対象外を周知する張り紙をしていることが、やさしさをはぐくむということになるのか。障害者差別解消法も存在する。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> どのバス路線か。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> バス路線の特定はできていない。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> バスの運転手が、一人で運転や接客を対応する中において、何かしら困惑することがあり、張り紙をしたのかもかもしれない。
興野委員	<ul style="list-style-type: none"> なぜ栃木県では、精神障がい者の運賃割引が認められないのか疑問である。
松本委員	<ul style="list-style-type: none"> 精神障がい者も運賃割引の対象になっていると思っていたため、驚いた。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省が、心のバリアフリーを推進している。今年はあるか分からないが、国土交通省との意見交換の場において、本審議会の会長としてではなく、個人として興野委員の意見の内容を伝えていきたい。

<p>麦倉委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多くのイベントが新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、中止を余儀なくされた。障がい者への理解促進を図るための手段として、イベントに期待していた。主催者としては、イベントを開催しないことも選択肢のひとつであるが、令和3年、4年に向けてどうするか。終息する見込みはなく、長期化が懸念される。今後の対応について、考えがあれば伺いたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、宇都宮市民福祉の祭典や講座を中止にしたほか、開催時期を変更するなど対応した。例えば、こころのユニバーサルデザイン運動のポスターコンクールについて、表彰式の開催は見送り、受賞者に対して、表彰状は学校を通じて送付する。また、社会を明るくする運動については、イベントを中止とし、非接触型の取組として、PR用DVDの放映を行った。感染症の状況によるが、できることを実施していきたいと考える。 最近では、新型コロナウイルス感染症のメカニズムが明らかになりつつある。会食シーンなどマスクを外す機会や密閉された空間において、感染リスクが高まるので、適切に対応していきたい。
<p>長谷川会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障がいや不登校の状況にある児童生徒に対して、オンラインだからこそできることもある。そういった取組をボランティアセンターやまちぴあに支援していただきたい。パソコンの設定などへの技術的支援があれば、各団体におけるオンライン会議についてもスムーズに始めることができる。宇都宮ならではの試みができるのではないかと。また、技術的にサポートできるボランティアの養成も求められる。
<p>松本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最近、オンラインの会議に出席する機会が多い。行政はオンラインでのやり取りを推進しているが、高齢者は機器の操作が難しい。私は、地域でボランティア活動を行っているが、基本から見直しをしないとやさしさをはぐむ福祉のまちづくりの目的は達成できないのではないかと。 手押し車の利用者から、平坦でない道があり、転びそうになったという話を聞いたり、一人暮らしの高齢者が病院に一人で行くことができないなどの話を聞いており、ボランティア以外にも、民生委員などと連携してニーズに対応していくことが必要である。
<p>檜山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昔と違い、現在は隣の人のこともわからない。民生委員が見守りとして訪問しても、不法侵入扱いとされる場合がある。最近では、8050問題など、外から見えにくい問題もある。困っていることを自ら発信してもらえると良いのだが、対応が難しい。
<p>麦倉委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ出しの手伝いなど、高齢者等地域活動支援ポイント事業に取り組んでいるが、活動にあたっての書類の作成などに手間がかかる。 振り込め詐欺などがあり電話も怖くて出ることができないとの地域からの意見も聞く。また、登下校している小学生に声を掛けると不審者とされることもある。人と人とのつながりや地域における支え合いをさらに発展させるには課題があると感じている。
<p>松本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私の地域の中では、子どもへ声をかければ返事がある。中学生が地域における清掃活動を行うこともある。大人と子どもが共に声を掛け合い、地域の中で活動しており、努力することで地域の良好な関係ができると考えている。

浜野委員	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年は、新型コロナウイルス感染症でさまざまなイベントが中止になった。令和3年は、少人数での開催や、時間差を設けるなど必要な対応を行い、ウィズコロナを前提として取り組むことが必要である。 オンラインで困るのは、肩が凝ることや表情が見えないこと、一方的に情報が入ることである。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、新型コロナウイルス感染症を言い訳にすることはできない。
浜野委員	<ul style="list-style-type: none"> どのように対応して目標を達成するか、考えていく必要がある。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様にご意見をいただきながら、取組を進めていく。 人と人がつながることが、地域福祉の基本である。少人数であっても、画面の向こう側でも、つながることを考えていくことが必要である。
<h2>6 その他</h2>	
松本委員	<ul style="list-style-type: none"> 長谷川会長は、今年の9月まで英国に滞在されていたと伺ったが、英国の新型コロナウイルス感染症の状況について伺いたい。
長谷川会長	<ul style="list-style-type: none"> 英国は3月24日にロックダウンした。普段は英国よりも日本の方が、ボランティアが活躍しているという印象を受けた。 病院において医療行為以外を行うボランティアや、外出できない方へ食料の配達を行うボランティアを募集したら、1週間で25万人の応募があるなど、有事における活動を非常に熱心に行っていた。 ボランティアが自ら、自分の連絡先を書いたチラシを木に張り付けて、手助けを必要とする人に対し周知するという方法があり、日本との国民性の違いを感じた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月頃に開催する宇都宮市社会福祉審議会全体会において、本日の会議結果を報告する。